

タイトル	タンザニアを知ろう！そして想像する。		
氏名	片尾 克年		
学校名	奈良県立橿原高等学校		
担当教科	理科(生物)		
実践教科	理科(生物)、図書館文化講座	時間数	授業15時間 (各3時間×5クラス)、 図書館文化講座1時間
対象生徒学年	授業は高3対象、図書館文化講座は、高1～高3及び教職員対象	対象人数	200名

## カリキュラム案

### (1) 実践の目的

タンザニアについて知り、二国間の高校生の意識の違いを比較することを通じて、異文化理解を深める。また、コーヒー1杯の値段の学習や貿易ゲームを通じて、タンザニアの生活を想像し、持続可能な開発や支援のあり方を考える。

### (2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1 限目</b> テーマ：タンザニアの真実 ねらい：タンザニアを知り、異文化への理解を深める。	(1) 生徒の事前アンケートの結果を確認する。 (2) タンザニアについて紹介をする。 (3) 本校生徒とタンザニアの高校生の意識の違いをアンケートの結果を使って確認する。 (4) フォトランゲージでタンザニアの人々の生活を議論しあう	(1) パワーポイント (2) 奈良テレビ放送制作の番組 (3) タンザニアで収集した写真、紙幣、ティンガティンガ、カンガ等
<b>2 限目</b> テーマ：おいしいコーヒーの真実 ねらい：コーヒー1杯の値段から、貿易について考える。	(1) 幸福度と1人あたりのGDPの関係を考える。 (2) タンザニアの自然環境とコーヒーについて (3) コーヒー1杯の値段から、コーヒー農家の取り分を考える。	(1) プリント (2) コーヒー豆 (各班10g) (3) パワーポイント
<b>3 限目</b> テーマ：貿易ゲーム ねらい：ゲームを通じて、持続可能な開発や支援のあり方を考える。	(1) 貿易ゲームを実施する。 (2) ゲームの後、持続可能な開発や支援のあり方について考える。	(1) はさみ、定規、三角定規、コンパス、分度器、鉛筆、上質紙、模擬紙幣(各班により中身が違う)



一番欲しいもの、いつ幸せを感じるかを順に紹介していった。本校生徒は、タンザニアの高校生の結果を興味深く見聞きし、自分たちの集計結果を予想し答えてくれた。(資料5～7)

一番大切なもののランキング (タンザニアVS権高生)

タンザニア	権高生
勉強 ①	①
仕事 ②	②
家族	③
友達	④
お金	⑤
宗教 ③	
63名	135名



資料5

一番欲しいもの (タンザニアVS権高生)

■ タンザニアセカンダリースクール	■ 権高生3年生
■ 1位 お金	■ 1位 時間(44)
■ 2位 教育(勉強がしたい)	■ 2位 学力・賢さ・才能(25)
■ 3位 先生になりたい	■ 3位 お金(22)
■ 【その他】	■ 【その他】
■ 夢を実現させたい	■ 自由(7)
■ (留学・エンジニア・経営・サッカー選手・歌手になりたい)	■ 大学合格(4)
■ 自国の貧しい人を助けたい	■ タイムマシン(4)
■ 自転車	■ 平和・安心(3)
■ テレビがみたい	■ 夢の実現(2)
■ 友達と話し合いたい	■ お金で買える物(パソコン・時計・楽器など) (18)

資料6

いつ幸せを感じるか (タンザニアVS権高生)

■ タンザニアセカンダリースクール	■ 権高生3年生
■ 1位 勉強しているとき	■ 1位 寝ているとき(40)
■ 2位 サッカーをしているとき	■ 2位 友達・好きな人といるとき(37)
■ 3位 友達といるとき	■ 3位 家族と過ごすとき(4)
■ 【その他】	■ 【その他】
■ 毎日(いつでも)	■ 趣味(音楽・読書など)(23)
■ 家族と食事をする時	■ 笑っているとき(13)
■ 学校にいる時	■ ごろごろのんびりしているとき(9)
■ お金をもらった時	■ 部活(2) 目標達成(2)
■ 楽器を演奏している時	

資料7



授業の様子

最後に、タンザニアの紙幣や写真を見せ、物価やタンザニアの人々の生活の様子を考えさせた。また、タンザニアで購入したティンガティンガやカンガを紹介した。

## 生徒の反応や評価

### (興味を持ったこと)

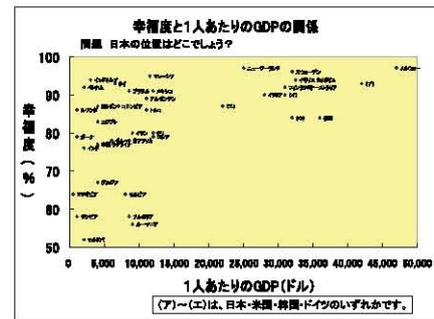
- ・タンザニアの学校生活。大切なものや幸せを感じる時が違うこと。
- ・文化・民族衣装・宗教・ティンガティンガ。一日1ドル以下で生活していること。
- ・青年海外協力隊の活動に興味があった。貧しい人々の力になることって良いことだと思った。金銭面での援助だけじゃだめで、人と人が直接関わりあって、技術などを伝えていくことが大切だということ。

### (感想)

- ・高校生の意識の違いにびっくりした。同じ高校生でも大切なものや欲しい物が違うんだなあと考えた。タンザニアの生徒は輝いている。
- ・勉強に対してすごく意欲的ですごいなと思った。僕たちと違って、勉強したいという気持ちが伝わってきた。私は勉強が嫌いであまりしていない。勉強することは幸せなことだと思った。
- ・日本とタンザニアでは価値観が違い、生活環境も違う。もっと知りたいなと思った。
- ・首都ではビルが建っているのに、その一方で貧しい生活をしている人がいて、貧富の差が大きいと思った。

## 2 限目 「おいしいコーヒーの真実」

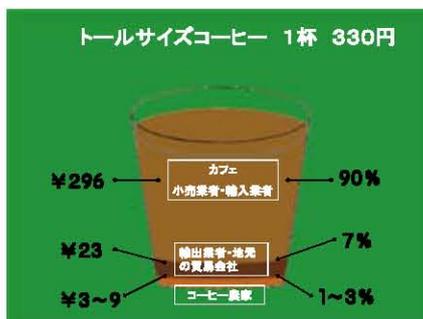
今回は5～6名のグループに分けて、学習を行った。前時の授業で、価値観の違いや経済的な格差に気づいてくれた生徒が多かったので、国ごとの人々の幸福度と1人あたりのGDPの関係を表したグラフを使用して、日本の位置がどこか考えさせた。残念ながら、タンザニアのデータがわからず比較することはできなかったが、各国の位置関係から、ほとんどのグループが日本の位置を適切に選択できた。(資料8)



資料8

次に、タンザニアの自然環境や人類の誕生について解説した。事前アンケートでは日本とのつながりとして「チョコレート(カカオ)」を挙げる意見が多かったが、実は「コーヒー」が代表的な主要輸出品であることを紹介した。

そして、日本のコーヒーショップで販売されている「コーヒー1杯の値段(330円)」を示し、「コーヒー豆10g」を各グループに配布して、コーヒー1杯あたりコーヒー農家が受け取る金額をグループで話し合わせた。各グループからの10円から50円の範囲での回答が多かったが、およそ3円から9円であると説明すると、驚く生徒が多かった。(資料9)



資料9



授業の様子

### 生徒の反応や評価

#### (どんな問題点があると感じたか)

- ・コーヒー農家が得る収入が少なすぎると思う。コーヒー農家にもう少し利益をあげてもいいんじゃないかと思った。10円値上げして、農家に渡してもいいです。(多数)
- ・コーヒー農家の生活が出来なくなると思う。このままでは、農村は発展をせず、ずっと発展途上国のままではないかと思いました。南北問題の改善には時間がかかりそうだ。
- ・安くコーヒーが飲めるのは、こんな原因があったんだなと思いました。貧しいとは思っていたけど、ここまでとは思いませんでした。
- ・原価を高くすれば売れなくなる可能性もあるので難しいと思った。
- ・企業の利益も大切なので何とも言えない。とにかく、問題を解決する方法が必要だ。
- ・貨幣価値(物価)が違うので、限度はあるが差はしかたないと思う。

### 3限目 「貿易ゲーム」

前時の授業を受けて、貿易が世界の人々の生活にどのような影響を与えているのかを理解させるために、貿易ゲームを実施した。40人のクラスでは、1グループ4名とした。各グループを先進国・新興国・発展途上国に分け、決められた形に紙を切り取り、商品として売らせ、最終的な売り上げを競わせた。各グループへの配布物は、国の状況に合わせて変えた。(教材の写真参照)なお、役は教員が担当した。



授業の様子



教材(各班の道具)

#### 生徒の反応や評価

- ・ チームで協力することと、周囲の力を借りなければ、より多くの収入を得られないことがわかった。助け合いが一番大切だと思った。急に値段が変わるなど、現実世界と似ていることが起こって、お金を得ることの大変さがわかった。
- ・ 材料や道具がないと何もできない。一つの国だけではできないことが多い。いろんな国がそれぞれ協力し合って、産業をなしているんだと思った。
- ・ クラスのグループの間でも大きな差があったことに驚いた。世界ではこれよりも大きな差が広がっている所以对処しなければならないと思う。

### 4限目 「図書館文化講座」

前半は、奈良テレビ放送制作の番組を視聴し、タンザニアの紹介を行った。次に、4~5人のグループごとに1枚の写真を配布し、フォトランゲージを行い、タンザニア人の生活について意見を出し合わせた。後半は、JICA国際協力推進員(元青年海外協力隊員)の方に協力していただき、ヨルダンでの協力活動や人々との出会いについてお話しいただいた。



生徒が作成したポスター



フォトランゲージの様子

フォトランゲージ使用写真の一部



セカンダリースクールの様子1



セカンダリースクールの様子2



村の様子  
(ごみため1)



村の様子(ごみため2)

生徒の反応や評価

- ・国によって、それぞれの立場があって、相手のことを理解しようと努力することが大切だと思った。自分の先入観との違いに驚きました。
- ・タンザニアにも日本と似たところがあり驚いた。国や文化が違って、私たちと同じように小学生や高校生がいて、頑張って勉強していることに親近感を感じた。ヨルダンやアフリカの文化もいろいろあって面白いと思った。
- ・ヨルダンでのコミュニケーションの取り方など、それぞれの国によって日本の常識とはちがうことがたくさんあることに驚いた。

実践授業を通しての所感・反省と今後の展望

- ・私がタンザニアで見聞きしたこと、体験したことをもとに、授業ができたので、自信を持って生徒たちに伝えることができた。生徒も関心を持ち授業を受け、たくさんのことを考え、意見を出し合ってくれた。
- ・伝えたいことがたくさんあったが、今年度は高3の授業しか受け持ちがなく、授業進度の兼ね合いもあり、タンザニアの紹介に終始した。生徒たちはその内容に興味を示してくれたが、当初、一番伝えたかった青年海外協力隊員の活動を伝えることができなかったことが残念である。
- ・今後も国際理解教育や開発教育を行う上で、国際協力が将来の進路の選択肢の一つとなりうるような授業を考えていきたい。

《参考資料》

『たのしい授業』2010.8月号(2010/10/No.369) 仮説社

映画『おいしいコーヒーの真実』公式サイト <http://www.uplink.co.jp/oishiicoffee/>